

山口県秋吉台を題材にした地域学習の取り組み

岩本政彦¹⁾・太田陽子²⁾*

¹⁾ 美祢市立本郷小学校・²⁾ 美祢市立秋吉台科学博物館

Regional study in elementary school with Akiyoshidai, the karst plateau in Yamaguchi

Masahiko IWAMOTO and *Yoko OHTA

はじめに

美祢市立本郷小学校は山口県の中央部、カルスト台地・秋吉台の西台と呼ばれる地域の南東に位置する。全校児童 41 名（2009 年度）の小規模校であるが、「自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成」を学校教育目標に掲げ、「ふるさとを愛し、みんなで高め合う本郷っ子」をめざしている。文部科学省が 2002 年から施行した小学校学習指導要領に記載された「総合的な学習の時間」を利用して、西日本でも貴重な自然が残る秋吉台を舞台に、地域と密着した特色ある活動として「ふるさと子どもガイド」を行っている。

そこでの目標は、実際の体験をとおして、課題発見、思考、判断、試みなどの学び方を身に付け、主体的に活用しながら課題を追求し、表現しようとする力を育てることである。また、学びをとおしてふるさとの良さに気づき、地域に暮らす人々や自己の生き方について考えようとする力を育てることもねらいの一つである。

本郷小学校では「ふるさと子どもガイド」を始めて 4 年が経過した。1 年目は 6 年生だけで、2 年目は 3～6 年生で、3 年目からは全校児童で取り組んでいる。低学年から高学年にわたって年齢の違う児童が縦割り班グループ 8 班に分かれ、各班ごとにまとめ、原稿をつくり、パネルを工夫するなどして発表を行っている。低学年の発表やまとめについては、高学年が手助けや支援をしている。

本稿ではおもに 2009 年度の活動を振り返って学習の効果や問題点を検討し、今後の学習の励みとするとともに、同様な活動に取り組む他地域の小学校と情報を共有することを目的とした。

秋吉台地域の概要

秋吉台地域とは、山口県の中央部、美祢市秋芳町と美東町、そして旧美祢市の一部にまたがるカルスト台地を指す。特に、秋芳、美東両町に含まれる東台は、台地の上に西日本有数の草原が広がっている。ここは 1955 年に国定公園の指定を受け、公園中心部は 1964 年に国の特別天然記念物に指定された（秋芳町史編集委員会 1991）。また、2005 年には秋芳洞、大正洞、景清洞を含む地下水系の一部がラムサール条約の登録湿地となった。

秋吉台地域では、草原の草を田畑の肥料や農業資材、牛馬のエサや堆肥などに利用してきた（美東町史編さん委員会 2004）。現在も毎年春に行われる山焼きは、草原が森林に変わっていくのを防ぎ、草の芽吹きをうながす目的で行われるが、農作業の一環という意識が強かったと思われる。現在では、草を農業や生活に利用するというものから、気持ちのいい風景や癒しの空間などのレクリエーション機能を求めるものに変化し（高橋 2008）、草原景観を維持する山焼きも観光が主目的になりつつある。また、作業を担う地域住民の人口減少や高齢化で年々作業が難しくなっており、面積も徐々に縮小してきている（太田 2008）。

学習のねらい

学習のねらいの一つである「自ら学ぶ力」の育成は、まず、自分たちが暮らす地域に目を向け、自ら目標や課題を見つけることから始まる。その際、地域の特色に気づくことでふるさとを愛する心を育てることが可能になる。そして、資料の活用や取材を通して追求する過程で、一緒に学び活動する喜びを感じることで人と関わる力を育てる。また、学習活動を支えてくださる地域の人やガイドを聞いてくれる人に感謝する心を通じて、人やものを思いやる力がはぐくまれる。さらに、調べたことや自分の意見などを多くの人にわかりやすく伝え、進んでガイドしようとするコミュニケーション能力の育成は社会生活を営む上での基礎的な力となる。最後に、学習やガイドそのものの活動を振り返ることで、さらによいものを作り上げていこうとすることに取り組んだ。これらはすべて「心豊かにたくましく生きる力」にもつながる。

さらに具体的なことになるが、ガイドの原稿をまとめるには自分たちで調べたことを班でまとめ、文章の構成を考え、表現に関しても言いたいことが伝わるようにいろいろな工夫することが必要になる。その際には、班の中で自分の意見が言えること、さまざまな考えをしっかりとまとめることなどが大切になる。また実際のガイドの場では、表情豊かに大きな声でゆっくり伝えることや、理由や例をつけて自分の意見を言えることが必要になる。これらは学校での教科学習にも共通する課題である。

学習の内容

人にわかりやすく伝えるためには、調べ学習や学びをしっかりと行い、自分の中に情報を蓄積することが第一である。低学年は日々の生活の中で動植物を育てる活動を継続したり、学校周辺の植物観察や昆虫教室などを講師を招いて学習したりした。中学年は、地元のナシ農園で花粉付け、袋かけ、収穫などのナシ作りを実際に体験した。高学年は、秋吉台の地形やその成り立ち、そこに生息・生育する特有の動植物、地下水系などの調べ学習を行った。その他、専門家と一緒に秋吉台の野鳥や植物の観察、洞窟探検や地下水系の観察などの現地学習を何度も実施した(表1)。おもな活動の詳細を以下に紹介する。

1. ナシの栽培学習

3, 4年生は秋吉町の特産であるナシの栽培を学習し(図1-A)、ガイドに生かしている。収穫したナシは、秋吉

表1 2009年度の学習・活動スケジュール

月	活動内容	対象学年
4	学校周辺の自然の学習	低学年
	ナシの栽培学習開始	中学年
6	秋吉台や洞窟の学習開始	高学年
7	秋吉台の現地学習	全学年
8	夏休み自然体験教室(秋吉台探索)	1~3年
	夏休み自然体験教室(洞窟清掃)	4~6年
9	ガイドの原稿作り, 看板・パネル製作, ガイドの練習等	全学年(原稿作りは各学年, その他は縦割り班での活動)
	全国草原サミット・シンポジウムに参加	高学年
10	ふるさと子どもガイド本番と振り返りの会	全学年(縦割り班での活動)

台で実際の観光客を相手にガイドをする際に食べてもらい、ふるさとの特産品と児童の活動のアピールに一役買っている。

2. 夏休み自然体験教室

夏休みを利用して全校児童参加の自然体験教室を実施した。1～3年生は秋吉台を散策しながら昆虫や植物を観察した。クズのつるを利用した綱引きを楽しみ、昔は刈草を束ねることに使われたつるがとても強いことを体験した(図 1-B)。4年生以上は秋吉台エコミュージアムの協力により、洞窟清掃(図 1-C)や秋吉台の地質調査をおこなった。

3. ガイドの準備

ガイドの原稿は児童が作文し、教員の助言で手直しする過程で完成していった。教員は最初から答えを提示するのではなく、子ども自身の興味に沿った形で必要な情報を提供し、気付きを促すことでよりよい形を一緒に模索することに努めた。

発表の時に使うパネルや看板の準備は、縦割り班で協力して行った(図 1-D)。さらに、ガイドのリハーサルを通して互いに気づいたことを話し合い、よく伝わるガイドをめざしていった。

4. 全国こども草原サミットへの参加

2009年9月に広島県北広島町で開催された、第8回全国草原サミット・シンポジウムに、本校の代表として高学年児童11名が参加した。開催地である北広島町の雲月小学校、島根県三瓶地域の志学小学校とともに第1分科会「全国こども草原サミット」で発表をおこない(図 1-E)、こどもサミット宣言を採択した。秋吉台でのガイド本番を一週間後に控え、その練習という意味合いもあったが、約200人の分科会参加者の前で堂々と発表を行い、他の小学校児童の質問に答える経験は貴重なものであった。また、他校の取り組みを知り、今後の活動の参考にもなった。

5. 秋吉台での「ふるさと子どもガイド」本番

「ガイドを聞いてください」と自分たちで交渉し、観光客を前に大きな声でガイドをした(図 1-F)。聞く時間が十分でない観光客には、メニューの中からガイドする項目を選んでもらったり、逆にお勧めをPRしたりするなど工夫した。ガイド後、手づくりの名刺を渡しながら会話をし、観光客との交流を深めた。北海道や沖縄から、さらには外国から訪れた人もおり、秋吉台が全国的に有名なことを実感した。後日、ガイドを聞いた観光客から手紙やメールが寄せられることも多く、良い交流が続いている。

また、ガイドを終えた午後からは全児童で秋吉台のゴミ拾いなどの清掃を行い、地域の宝を大事にする活動とした。

学習の成果と課題

ガイド本番では縦割り班に1名の教員がつき、安全の確保、活動の記録や評価を行っている。児童は昼食前とガイドが終了した時点で班ごとにガイドを振り返り、その場で課題と解決方法を見つける努力をしている。教員は評価項目カードを利用しながら児童の発表の様子や積極性、協力性などを評価し、反省会にて協議し合った。

1. 学習の成果

「大きな声でよく伝わるように話したい」「積極的に声をかけてガイドする」など自分や班のめあてをもち、縦割り班を中心に協力しながら学習を進める態度が見られた。

お客さんにベンチに座ってもらいガイドをするなど、相手のことを考えた行動ができるようになった点で成長を感じた。また、ガイドの合間に読み方のアドバイスをするなど、リーダー性を発揮した班長が見られ頼もしかった。



図1 美祿市立本郷小学校における学習の様子

さらに、調べて分かったことだけでなく、自分の意見や願いを入れた原稿作りができており、ふるさとに対する気持ちがよく伝わったように思う。

2. 学習の課題

通常、活動は2学期に行っており、観光客も多くガイドの時期としては最適であるが、他の行事や学習と重なるため様々な面で負担が大きい。そこで、1学期に実施の方向で改善していくことになった。

ガイドは展望台周辺で行うため、そこで商売をされている方をはじめ、地域の理解を得るための機会をもつ必要があるという意見も出された。また、ガイドの際、発表者以外の行儀やマナー等の指導が必要であるという意見もあった。

おわりに

学習活動をとおして、子どもたち一人ひとりがふるさとと深く関わることはとても素晴らしいことである。子どもたちは自然の営みや神秘、不思議、価値の大きさなどを身をもって知ることができ、自分たちのふるさとを好きになり、誰かに伝えたいという意欲や欲求が生まれてくる。

また、高学年については、ガイドそのものに工夫をこらし、初めて出会う観光客に声をかける緊張感、聞いてもらったときのうれしい気持ち、感謝の気持ち、そして、ガイド後の観光客との雑談などを体験する。県内外からの観光客にガイドをするには、自分の伝えたいことをどうわかりやすく伝えるか、伝える勇気、伝える喜びなどを学ぶ方法として最適な「生きた」学習だといえる。

子どもガイドそのものは2日間だけで、本年のような天候不順の場合は1日だけの活動となるが、子どもたちは多くのことを学ぶ。指導にあたる教員も、真剣に伝えようとする気持ち、各学年に応じた活動を共同して行う班活動での連帯感、自然にわいてくる感謝の気持ちなどを子どもたちと分かち合い、この活動の素晴らしさを実感している。

秋吉台地域も過疎・高齢化の波を免れず、国定公園に指定された秋吉台も地元住民による山焼き作業の困難さから、草原景観の存続を憂う声も上がっている（秋吉台草原シンポジウム・サミット実行委員会 2002）。秋吉台に限らず、草原を有する地域では草原管理者の高齢化が進み、次世代に草原環境を引き継いでいくには子どもたちや若者の参画が不可欠である。そのため、阿蘇地域では子どもたちをはじめとする地域内外の人々に草原環境を学習・体験してもらうプログラムを開発し、草原の重要性の理解と参画意識の普及を図っている（高橋 2009）。

秋吉台地域でも2007年にエコツーリズム協会が発足し、洞窟や地形などカルスト台地特有の自然とその地上部に広がる草原を題材とした体験型の観光を模索している。単に見て歩くだけの観光ではなく、地域と来訪者がともに秋吉台の自然を考える環境教育の場が公的に作られたことは非常に重要であるが、特に若い世代や子どもたちに必要な学習プログラムの構築に関してはまだ十分であるとはいえない。そのような状況の中、本校の取り組みは小学校教育の一環としての位置付けだけでなく、地域の環境学習のさきがけとして認識されている（エコツーリズム秋吉台地域戦略会議 2007）。

著者の岩本は、旧美祢郡秋芳町の八代小学校（現美祢市）において、「秋吉台子どもガイド」の実践を4年間行った経験がある。八代小学校の廃校に伴い、そのノウハウを転任校である本郷小学校に引き継いだ。その際には秋吉台や秋芳洞を中心とした学習素材だけでなく、特産である梨の栽培体験や地域の歴史、伝承など学習の範囲を広げていった。

現在小学校で学ぶ子どもたちはやがて地域を担う世代となる。その時、ふるさとに学び、ふるさとを愛する気持ちを忘れず、地域を担う誇りをもって暮らしていく人材を育てることが本活動の大きな目標である。そのため、今後も地域教材の掘り起こしや地域の人との協力体制を強化するとともに、実施計画案、指導計画案や資料の蓄積等に努め、積極的に改善を進めながら本校の特色ある教育活動をすすめていきたい。これらの情報や知見は、学校教育のみならず、地域振興に貢献するエコツーリズムの礎として重要な役割を果たすと思われる。

謝辞

地域での調べ学習や体験学習，秋吉台での現地学習では，ナシ農家の藤岡謙亮氏，秋吉台科学博物館元館長の中村 久氏，同学芸員の石田麻里氏，秋吉台エコ・ミュージアム館長の配川武彦氏，同館職員の田原義寛氏，地域史研究家の木島忠興氏，美祢市秋芳町在住の多賀谷三枝子氏をはじめとする講師の方々には大変お世話になった。また，この活動を支えて下さった本郷小の先生方，保護者の方々には心から感謝申し上げます。最後に，全国草原サミット・シンポジウム参加と本稿執筆の機会を下さった実行委員会の方々に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 秋吉台草原シンポジウム・サミット実行委員会（2002）秋吉台草原シンポジウム全国山焼きサミット in 秋吉台報告書。秋芳町。
- エコツーリズム秋吉台地域戦略会議（2007）秋吉台地域エコツーリズム推進戦略～はじめよう，広げよう，秋吉台エコツーリズム～。山口県。
- 美東町史編さん委員会編（2004）美東町史 通史編。美東町。
- 太田陽子（2008）秋吉台国定公園における絶滅危惧植物の現状とその生育地としての評価。エリア山口 37: 26-34。
- 秋芳町史編集委員会編（1991）秋芳町史 改訂版。秋芳町。
- 高橋佳孝（2008）野草資源のバイオマス利用—畜産だけでなく草利用の古くて新しい分野—。日本草地学会誌 53: 318-325。
- 高橋佳孝（2009）多様な担い手による阿蘇草原の維持・再生の取り組み。景観生態学 14（1）: 1-4。